



### 赤澤 清孝 理事の巻

relay essay

Topics

#### ボランティアコーディネーター 研究集会(JVCC)2005

阪神淡路大震災から10年目を迎える。ボランティア元年とも言われたこの年の翌年、当時学生だった私は学生有志で学生のためのボランティアセンターを設立した。学生たちがボランティア活動を通じて、他者や社会に貢献するなかで、市民として成熟するための学び、成長を得る機会を提供したいとの想いで活動に取り組んできたが、それゆえに悩むことも多かった。というのは、様々な施設や団体から学生のボランティアを求める依頼が数多く寄せられるものの、学生ボランティアの持っている力がうまく生かされたり、ボランティアの学びや成長を促すよう意識してコーディネーションを行っている組織が思いの外、少ないのが実態であったからだ。単に活動先を紹介するのではなく、学生の力が生かされる環境そのものを地域の活動先と一緒につくっていかねければ、という問題意識が芽生えたのはその頃である。以来、ボランティアコーディネーターやボランティアコーディネーションのあり方について深く考えるようになり、現在もまだその答えを模索中である。

この10年、ボランティアや市民活動を支援する機関が全国的に広がり、インターネットの普及も一層進み、学生を含む市民がボラン



ティア募集情報を得る機会は格段に増えた。

京都でも3つの大学でボランティアセンターができるなど社会は大きく変化している。しかし、ボランティアを受け入れる側のコーディネーションのレベルは、果たしてその変化に対応できているといえるだろうか。

私がJVCAの理事として求められているのは、このようなボランティアコーディネーションの課題を乗り越えるために会員のみならずと学びあう機会をつくっていくことだと考えている。

同じような問題意識をお持ちのみなさん、ぜひ2月にJVCC東京大会でお会いしましょう。

(赤澤清孝(あかざわ・きよたか) きょうとNPOセンター)

実は今日やっとJVCC2005の開催要項が完成した。毎年のことではあるが、原稿締切ぎりぎりまで事務局担当者と実行委員の攻防戦が続く。中身の濃い研究集会をつくりたいと思えばこそその熱いやり取りである。要項はこの広報紙と一緒に会員の皆さんの手元に届くのでじっくり読んでいただきたい。

さて、JVCCは3年ぶりの東京開催になる。全国どこからでも比較的アクセスがいいのが東京のメリット。昨年同様、基礎的な内容のA日程と実践的な内容のB日程に分け、それぞれに300人の参加定員を用意した。

昨年の京都集会では過去最高の参加者があり、その場でJVCAの会員になっていただいた方も数多くいらっしゃる。あの時の感動?や気づきを思い出し、明日の実践に向かってのパワーを養うためにも、ぜひとも[リピーター]になってほしい。

B日程の研究・実践編は毎年、参加者が相互に実践を持ち寄り、議論し、その成果を積み上げていくことで、深みを増していく。年に1回の単発のイベントとしてではなく、日々の実践としっかりとつながった相互検証の場となるといい。そして、それぞれの実践研究を発信し合う場になれば「ボランティアコーディネーター」の姿がもっとはつきりと見えてくると思っている。

#### <目次>

relay essay / Topics	1
特集：鼎談「基本指針」どう読む?どう使う?	2
ワーキングチームから一言	5
こ・こ・こらむ	6
CoCoサロンみと報告 他	7
JVCA INFORMATION	8

特定非営利活動法人

日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-2-5興新ビル206

TEL: 03-5280-2601 / FAX: 03-5280-2618

E-mail: jvcamail@jvca2001.org

URL: http://www.jvca2001.org/

Co Co Net 第12号 定価: 250円(送料込み)